

# 長引く物価高により、停滞感強く、景況感は横ばい 第179回中小企業景況調査(1月～3月期)

今回調査では、長引く物価高により、停滞感強く、横ばいの傾向となった。3指標ともマイナス圏で推移し、来期は悪化傾向を示している。特に、卸売業と小売業の売上・業況DI値のマイナス幅が大きく、景況感の悪化が目立つ。

すべての物やサービスが値上がりする中で消費低迷やコスト増が顕著となっており、長引く物価高の影響と慢性化する人手不足、そして徐々に上昇する金利の負担増によって資金繰りの悪化も懸念されるなど、悪材料が多く、厳しい状況にある。来期は、新年度になり人の往来が活発になる時期であることや継続的な賃金の上昇により、個人消費の回復、拡大に期待したい。

**今期 業況は横ばい  
来期 売上の改善を見込む  
製造業**

製造業の今期売上DIは、△9.1(前回5.9)とやや悪化傾向を示す一方、業況DIは、△15.2(前回△14.7)と横ばいとなった。

来期見通しの売上DIは、3.0(前回△8.8)とやや改善したが、業況DIは、△12.1(前回△8.8)と横ばいとなった。

業況は、今期・来期とも横ばいとなったが、今期の売上はやや悪化したものの来期は改善を見込む。コスト増やアメリカの動向といった不安材料はあるが、需要回復による売上の増加を期待したい。

**売上・業況DI 今期は横ばい  
来期はやや悪化を見込む  
建設業**

建設業の今期売上DIは、15.4(前回10.7)と横ばい、業況DIもまた、7.7(前回3.6)と横ばいとなった。

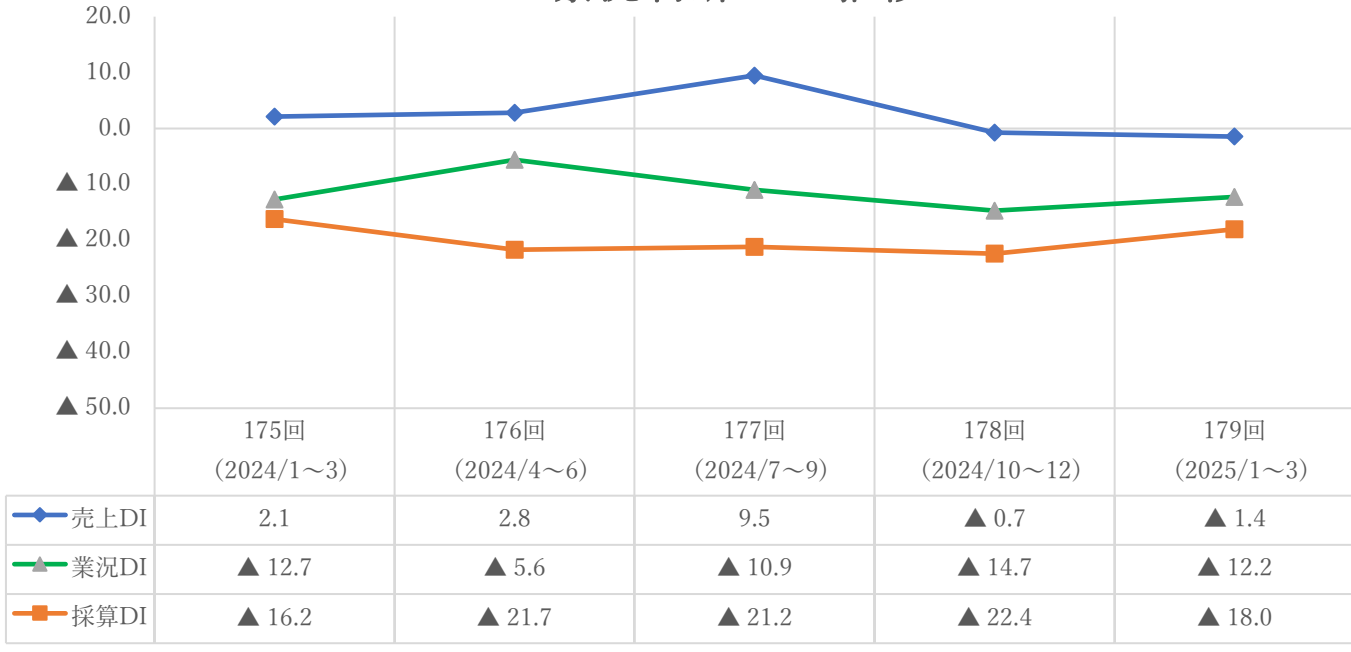
**今期・来期 売上DIはやや悪化  
業況感は悪化が継続  
卸売業**

卸売業の今期売上DIは、△8.0(前回3.8)とやや悪化を示したが、業況DIは△16.0(前回△23.1)とやや改善となった。

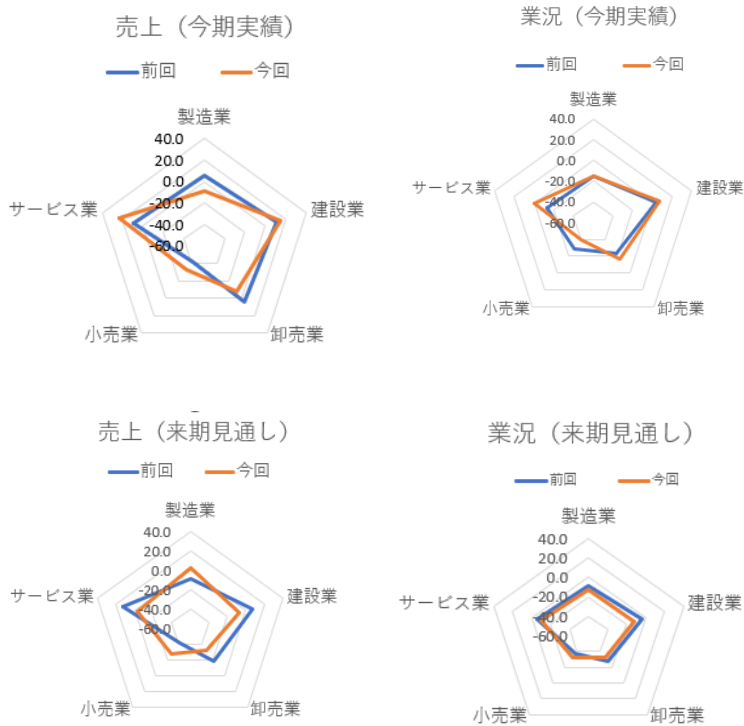
来期見通しの売上DIは、△3.0(前回△19.2)とやや悪化となり、業況DIは、△32.0(前回△26.9)と横ばいとなった。

円安等の影響による仕入コスト増や輸送費の値上げを卸売格に十分に転嫁出来ていない状況が見られ、業況感は悪い結果となった。

景況判断DIの推移



DI 値 (景気判断指数) = (増加・好転の回答割合) - (減少・悪化の回答割合)



前回調査比	売上		業況	
	今期実績	末期見通し	今期実績	末期見通し
製造	↓	↗	→	→
建設	→	↓	→	↓
卸売	↓	↓	↗	→
小売	↗	↗	↓	→
サービス	↗	↓	↗	→

凡例 (少数点以下は四捨五入)

~-16	-15~-6	±5	+6~15	+16~
↓	↘	→	↗	↑
大きく減少 悪化	やや減少 悪化	横ばい	やや増加 好転	大きく増加 好転

今期・来期 売上DIがやや改善  
業況感 悪化が続く見通し 小売業

小売業の今期売上DIは、△32.0 (前回△41.7)とやや改善を示し、業況DIは、△40.0 (前回△29.2)とやや悪化した。来期の見通しは、売上DIが△28.0 (前回△41.7)とやや改善を示し、業況DIは、△32.0 (前回△37.5)と横ばいとなった。寒波やインフルによる外出機会の減少や物価高による消費の低迷によって、景況感は厳しい状況が続いている。来期は人の移動が活発になる時期のため、春の行楽シーズン等に期待したい。

サービス業の今期売上DIは、23.3 (前回9.7)とやや改善し、業況DIもまた0.0 (前回△12.9)とやや改善した。来期の見通しは、売上DIが△3.3 (前回12.9)と大きく悪化し、業況DIは△10.0 (前回△6.5)と横ばいとなった。今期は販売価格の値上げや年末年始の繁忙期があり、売上が増加したことによる改善傾向を示した。来期は家計負担増による節約志向や燃料費の高止まりによる外出控え等により、売上の悪化を見込む。

今期 売上・業況DI やや改善  
来期 売上DI見通しは悪化 サービス業

### 事業者からの声

・主要取引先からの受注が停滞していることにより自動車関係はあまり良くない。  
(金属加工・製造業)

・材料費や外注費が増加。競合もありコスト増加分を価格転嫁できていない。  
(建築・建設業)

・原材料の高騰や円安による経費の上昇により経営状況は悪化した。  
(食料品・卸売業)

・客単価が減少しているため、もう1品を購入して頂けるよう色々試している。(ペット関連・小売業)

・求人を出しても雇用ができない。人件費や材料費の高騰により利益が減少した。(専門料理・飲食業)

・キャッシュレス決済を導入したところ、2割程度の利用者が増えたことで、現金回収が遅れ、資金繰りに影響している。  
(物産・飲食業)